

事業の背景・目的

ツシマウラボシシジミは、国内では対馬にのみ生息するシジミチョウの一種で、2010年ごろには激減、絶滅のおそれのある種の保存に関する法律に基づいて箕面公園昆虫館では平成30年度よりツシマウラボシシジミ生息域外保全事業に参加、生息域外保全を行っている。また、令和3年度からは、近郊弱性を予防するため循環交配により繁殖を開始した。令和3年度時点で、秋までの3系統の維持はクリアできているものの、越冬世代(本種は幼虫で越冬する)においては、3系統そろって継続可能な個体数を維持することができていない。この状況を早期に打破し、安定した累代飼育を継続できる状態に技術力を向上させることが本事業の目的である。

事業の内容

令和6年度

事業ア 累代飼育事業

- ・累代飼育の安定化
- ・蛹による雌雄判別の精度向上
- ・越冬に関する技術の向上



事業イ 情報共有促進事業

- ・生息域内保全との連携強化
- ・スタッフのスキルアップ



得られた成果

- ・インキュベータなどの機器を追加導入することでより精密な飼育管理が可能になった。
- ・人員の補強によりより丁寧な飼育管理が可能になり飼育の仕上がり向上した。
- ・蛹での雌雄確認の精度が安定してきたことで、交配作業の効率向上につながった。
- ・飼育技術の向上により、ファウンダーの補充なしで長期にわたる3系統の維持が可能になった。
- ・現地視察に訪れたことで生息環境を理解することができ飼育スタッフの知識及び意識の向上につながった。また、生息域内保全に関わる担当者との交流により、情報共有がより緊密になった。
- ・現地視察によって、スタッフの知識レベルの向上を図ったことで、普及啓発にも生かすことができた。
- ・生息域内保全に関わる担当者との連携が密になったことで、余剰個体の現地への供給がスムーズになった。